

# デジタルマーケティング -デジタル技術で激変するマーケティングを基礎からケーススタディ、ネット販売サイトのデザインまで実践的に学ぶ-

単位数	ナンバリングコード	
2	DBA406	
	教員名	明神 知
	専門	エンタープライズ・アーキテクチャ (EA)、システムダイナミクス、ビジネスイノベーション、情報セキュリティ・アーキテクチャ、サービスデザイン思考、ソフトウェア工学、教育工学、デジタルビジネス開発方法論
	出身校等	大阪大学 大学院 基礎工学研究科 修士課程修了
	現職	北海道情報大学 経営情報学部 教授
授業形態		
前期印刷授業・後期印刷授業		
授業範囲	試験範囲	
マーケティングの基礎からWebマーケティングへ、さらにデジタル技術が加速するデジタルマーケティングの進化を学び、AIに代表される新たな技術革新によって将来動向を確認する。一方、経営戦略をどのようにUI/UXに配慮し、顧客心理モデルに沿ったデジタルマーケティングの基本設計にしていくなかで、その手法を学ぶ。最後に優れたデジタルマーケティングを実践しているWebサイトのケーススタディを経て各自の思う製品、サービスのデジタルマーケティング企画を検討する。	授業の範囲 (第1回から第15回)  【試験時参照許可物】 一切自由 ※ただしWebページ (通信教育部POLITEを除く) と生成系AIの参照は不可とする。	
科目の概要		
デジタル技術で、激変するデジタルマーケティングを基礎からその手法を学び、ネット販売サイトのデザインや優れたケーススタディを確認して、各自の商品・サービスのマーケティング企画を構想するまで実践的に学ぶ		
授業における学修の到達目標		
デジタルマーケティングについての基礎知識を獲得して、自分なりのビジネスにおけるデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの構想が描けること。		
講義の方針・計画		
1章 マーケティングからデジタルマーケティングへ 2章 Webマーケティング 3章 マーケティングの進化を加速するテクノロジー 4章 経営とマーケティング 5章 コトラーのマーケティング 6章 UX/UIデザイン 7章 顧客心理モデル 8章 トリプルメディアの運営と活用 9章 EC市場 (1) 10章 EC市場 (2) 11章 動画の活用 12章 トータルマーケティングプランニング		

<b>講義の方針・計画</b>
1 3章 ケーススタディ(1) 1 4章 ケーススタディ(2) 1 5章 最新動向と将来のマーケティング
<b>準備学習</b>
<p>予習：30時間＝2時間×15回 最終のレポート課題で扱う各自の製品、サービスについてはあらかじめ予習として各自の経験した商材や身近にあるものを探索して、その顧客イメージを想定するためにネット検索やインタビュー、商材の体験などを行う事。教材に示したマーケティング用語や解説について十分理解できないものについては各自でネット検索等によって予習しておく。</p> <p>復習：30時間＝2時間×15回 全体の学習を終えて提出すべきレポート課題に反映すべき各章のマーケティング手法を整理して各自のサービス、顧客に適した微修正をしてレポートに取り込むことができるよう準備をしておく。そのために教材に示した演習、確認問題について教材の内容を再確認し、各章の末尾に参考となる動画やWebページを訪ねて、その内容を自筆ノートなどに記載してレポートに記載すべき候補をあげておくこと。</p>
<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法</b>
印刷授業は、提出されたレポートについて講評を付与して返却する。
<b>成績評価の方法およびその基準</b>
科目試験：50% レポート：50%
<b>教科書</b>
なし
<b>参考書</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コトラーのマーケティング4.0、フィリップ・コトラー、朝日新聞出版</li> <li>・コトラーのマーケティング5.0、フィリップ・コトラー、朝日新聞出版</li> <li>・いちばんやさしいデジタルマーケティングの教本、田村 修(著)、インプレス</li> </ul>
<b>その他</b>
無し
<b>試験期間</b>
シラバス検索画面トップページ ( <a href="https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/">https://syllabus-tsushin.do-johodai.ac.jp/</a> ) 下部の「2024学年暦」を参照
<b>学習プリント</b>
あり
<b>教職科目</b>
<b>関連受講科目</b>
ソフトウェアエンジニアリング、情報システム学概論Ⅰ、情報システム学概論Ⅱ
<b>担当教員の実務経験</b>
1980年から1987年まで重工業メーカーの宇宙開発事業部で実験ロケットおよびスペースシャトル搭載実験装置のCPUボード、通信制御回路（ミリタリースペックの通信制御プロトコル）の設計開発実装、搭載電気炉の温度制御アルゴリズムを開発し、そのテストプログラムを開発した。この時に電気系CADによる電子回路の設計、試作製品の試験を行った。続いて1987年から2015年まで情報サービス会社に在職し、ITコンサルティング UMLビジネスモデリング、音声認識を使った知的CAIシステムの研究開発、DWH開発、CASE・EA開発方法論の策定、IT投資マネジメント、大規模プロジェクト管理、ERP導入支援 CIO補佐官業務 情報サービス産業白書部会長 EAコンサル、AIシステムやリバー

## 担当教員の実務経験

スエンジニアリングの研究、デザイン思考とアジャイル開発のデジタルビジネス開発のコンサルタント統括として外部コンサル及び、社内の人材育成を行った。このように、情報システムの分析、設計、開発の基本的な概念から、その応用までの幅広い経験を活かして、学生への教育指導に当たっては、講義内容の先にある社会における課題や実装の工夫などにも触れて関心を持ってもらい、つながりのある知識として深い理解を得るよう努めます。